



ここにいるから

Vol. 12

発行
発行者

2022.6.1
天草漁協



イルカの基礎知識 個体識別②

イルカの個体識別に重要なパーツのひとつが背びれであることを前号で解説しました。今回は、この2頭を紹介します。

左のピックは、昨年の夏にネーミングをしました。発見当時、本来は三角になっているはずの先っぽに血のじむケガを負っているました。すでに、無残にも先端は消失して、写真の形状でした。（これは数か月後の様子）切り口を観察すると、鋭利な刃物で一気に切断されたというよりは、釣り糸のようなもので数日締め付けられ、やがて切れ落ちたのかな、と想像しました。きつと痛かったことでしょう・・・

幸い、自然治癒しました。現在、元気に仲間たちと泳いでいます。

個体識別には有用ですが、なくなった部分は、今後、新生することはありません。



人が海に捨てたゴミ

右のイルカは今年に入ってから発見。干支にちなみ、タイガーと名付けました。体ひれの右下から左上方向に何か刺さりめくり上げられたようにみえます。上半分はいびつに欠けた部分もあります。正確証はありませんが、上半分は自然にできた経過、下半分は、人工的ななんらかの「物」が原因でできたと想像することができそうです。イルカも人も生きているうちに、自然にケガをすることは、もちろんあります。しかしイルカにこのようなケガをもたらす原因は釣り糸や、ルアー、鉄くずや、プラスチックなど、

死んでしまうこともあるのです。

日本のイルカ研究の筆頭！
 といえば東京都、伊豆諸島にある
 みくらじま
御蔵島

日本中のイルカファンが集まり、野生イルカとの交流を楽しみます。また多くの大学や研究者も出入りして様々な調査が行われています。個体識別調査は1994年からはじまり、驚くべきことに、ほぼすべてのイルカを把握しています。御蔵島周辺に根づいているイルカは、天草と同じミナミハンドウイルカ。約110～160頭前後が生息しています。イルカ研究については正にお手本。天草も少しづつ頑張ります☆

天草 **イルカ**
調査室

天草漁協 通詞島沖イルカ環境実態調査事業



Amakusa
Iruka Lab
SDGs

ひろみコラム

イルカを見分けることができる事は、学術的な意義や、観察の楽しさなどがあります。そこからさらに掘り下げて、なぜこんな背びれになったのかな、という背景にも思いを巡らせてみてください。。

記事や活動についてのお問い合わせ

天草イルカラボ
 amakusa_dolphin

検索

